ＥＡ２１環境経営レポート

＜対象期間＞　2023 年 4 月～2024 年 3 月

発行日　2024 年 9 月 2 日

東九州運輸有限会社

環境経営レポート目次

PDCA サイクル		タイトル	頁
計画の策定（Plan）	1	組織の概要、対象範囲	1
		環境経営方針	2
	2	環境経営目標１	3
	3	環境経営目標２	4
	4	環境経営計画	5
計画の実施（Do）	5	１．環境経営計画に基づき実施した取組内容 ２．実施体制	6 7
取組み状況の確認及び評価（Check）	6	１．環境経営目標の実績・取組結果とその評価 ２．環境経営計画の実績・取組結果とその評価	8 9
	7	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	１０
全体の評価と見直し（Act）	8	代表者による全体の評価と見直し・指示	１１

1.　組織の概要

１．　事業所名及び所在地

社　名：　東九州運輸有限会社

代表者：　代表取締役　内田　恭裕

所在地：　〒870-0272　　大分市大字迫 925 番地 3

２．　環境管理の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者（担当連絡者）　内田恭裕

連絡先　TEL　　：097-521-7733

FAX　　：097-521-7732

Email　　：uchida@h-kyusyu.jp

３．　事業内容

・一般貨物自動車運送業

・貨物保管業

４．事業の規模

設　立　：　　昭和 41 年 4 月

資本金　：　　10,000 千円

売上高　：　　590,169 千円　(2023 年度)

従業員　：　　25 人（パート・アルバイト 1 名含む）

保有車輌　：　　トラック　30 台、シャーシ 13 台

５．環境年度（会計年度）

４月～３月

６．対象範囲

全組織・全活動

2. 環境経営方針

＜基本理念＞

東九州運輸は物流に関わる企業として、環境保全活動を推進することが社会的責任と認識し、大気汚染・地球温暖化防止のため、環境負荷の低減に努めます。これらを継続していく中で、経営上の様々な課題やチャンスを考慮した企業経営を行い、企業価値の向上を目指します。

＜行動指針＞

１．　物流が環境に与える影響を認識し、環境関連法規・その他社会的責任の要求事項を遵守します

２．　物流活動で生じる環境への影響を考慮し、環境保全に積極的に取り組みます

① 電力消費量削減・燃料消費量削減による CO2 排出量の削減

② 廃棄物の削減及びリサイクルの促進

③ 水使用量の削減

④ グリーン購入の推進

⑤ 交通事故・商品事故を無くし、高品質なサービスの提供

３．　経営方針と環境経営方針の統合を図ります。全社員に周知すると共に、環境保全に関する意識を高めるとともに継続的改善に努めます。

４．　この方針を公開し、社内外のコミュニケーションに努めます

制定日：令和元年６月２０日
東九州運輸有限会社
代表取締役　内田　恭裕

３－１．環境経営目標

作成日　２０２１年４月１日【各年度の対象期間は決算年度　４月～翌年３月】

環境経営方針の番号	取組目標	実績	環境経営目標		
		基準年度 ２０１８年度	２０２１年度	２０２２年度	２０２３年度
1	CO2 排出量の削減	3,319,37 kg-CO2	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし数値は把握
１－１	電力消費量削減	36,000 kwh	固定値とし活動を目標とする	固定値とし活動を目標とする	固定値とし活動を目標とする
１－２	１．軽油消費量削減	1,278,220ℓ	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし数値は把握	数値目標なし数値は把握
	２．燃費の改善	2.76 km/ℓ	基準年度+１％ 2.84 km/ℓ	基準年度＋1% 2.80 km/ℓ	基準年度＋3% 2.83 km/ℓ
2	廃棄物の削減				
２－１	産業廃棄物のリサイクル率 100%維持	１００％	100%	100%	100%
２－２	可燃ごみの削減	292 kg	基準年度比 ３％ 400	基準年度比 1% 407	基準年度比 1% 406
3	水使用量削減	５１０m3	基準年度比 １％495m3	基準年度比 8%453m3	基準年度比 8%453m3
4	業務システムの再構築		業務の棚卸 進捗度 50%	業務の棚卸 進捗度 100%	主要項目改善
5	サービスの環境配慮 （交通事故・商品事故件数の削減）	交通：0 件 商品；0 件	０件	０件	０件

・電力消費量削減について

電力メーターが他社と共用の為、消費は固定値とし活動を目標とする。

・2020 年度の九州電力㈱の二酸化炭素実排出係数　0.391ｋｇ-CO2／ｋｗｈ

・廃棄物の削減について

廃棄物をリサイクルしている廃オイル、廃タイヤ等と可燃ごみの 2 本立てとする。廃棄物処理手順書に従い、リサイクル 100%維持と可燃ごみの削減に努める。

・水使用量削減について

上水と地下水を使用しており、数値目標としてはメーターを有する上水とする。地下水についても削減に努める。

３－２．環境経営目標　（対象期間 2024 年４月～2027 年３月）

作成日　２０２４年４月１日

環境経営方針の番号	取組目標	実績	環境経営目標		
		基準年度 ２０２１年度	２０２４年度	２０２５年度	２０２６年度
1	CO2 排出量の削減 単位：kg－ＣＯ2	2,846,916	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし数値は把握
１－１	電力消費量削減 単位：kw/h	36,000	固定値とし活動を目標とする	固定値とし活動を目標とする	固定値とし活動を目標とする
１－２	１．軽油消費量削減 単位：ℓ	1,098,000	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし 数値は把握	数値目標なし 数値は把握
	２．燃費の改善 単位：km/ℓ	2.80	基準年度+1% 2.83 km/ℓ	基準年度+1% 2.83 km/ℓ	基準年度+3% 2.88 km/ℓ
2	廃棄物の削減				
２－１	産業廃棄物のリサイクル率 100%維持	100%	100%	100%	100%
２－２	可燃ごみの削減 単位：kg	４００ ※2021 年度の目標値を継続	４００	４００	４００
3	水使用量削減 単位：㎥	４００㎥	基準年度比 △２％392	基準年度比 △２％392	基準年度比 △２％392
4	業務システムの再構築		業務の棚卸主要項目改善	業務の棚卸主要項目改善	業務の棚卸主要項目改善
5	サービスの環境配慮 （交通事故・商品事故件数の削減）	交通：0 件 商品；0 件	０件	０件	０件

・電力消費量削減について

電力メーターが他社と共用の為、消費は固定値とし活動を目標とする。

・2020 年度の九州電力㈱の二酸化炭素実排出係数　0.391ｋｇ-CO2／ｋｗｈ

・廃棄物の削減について

廃棄物をリサイクルしている廃オイル、廃タイヤ等と可燃ごみの 2 本立てとする。廃棄物処理手順書に従い、リサイクル 100%維持と可燃ごみの削減に努める。

・水使用量削減について

上水と地下水を使用しており、数値目標としてはメーターを有する上水とする。地下水についても削減に努める。

4. 環境経営計画

作成日　２０２４年４月１日

環境経営方針の番号	取組目標		具体的な活動	担当	実施時期
1	CO2 排出量の削減				
１－１	電力消費量削減（文書 6-1：電力消費量削減の行動による）		１．不要電灯の消灯	事務所	随時
			２．昼休みの消灯	事務所	随時
			３．エアコンの適温設定（夏２８℃冬１9）	事務所	
			４．エアコンフィルター清掃	事務所	４月、１０月
１－２	１．軽油消費量削減（文書 6-2：軽油消費量削減の行動による）		１．各車輌・全体の燃費の確認	内田	毎月
			２．積載負荷率の動向確認	内田	毎月
			３．運行経路の見直し	内田	適時
	２．燃費数値の改善（ｋｍ／ℓ）		１．デジタルタコグラフによる燃費影響データの解析	内田 運輸個人	随時
			２．省燃費運転講習会で周知	運輸個人	随時
2	廃棄物の削減（文書 6-3 廃棄物処理手順書）	2-1 産廃のﾘｻｲｸﾙ 100%維持	1.廃オイルのリサイクル徹底	全社	随時
			2.タイヤ、バッテリーリサイクル徹底	内田	随時
			3.その他について、リサイクル努力	内田	随時
		2-2 可燃ごみの削減	1.リサイクルへの分別の徹底	全社	随時
			2.コピーの裏紙使用	事務所	随時
3	水使用量削減（文書 6-4：水使用量削減の行動による）		１．洗車時こまめに水道ストップ	運輸個人	随時
			２．水漏れ確認（蛇口・配管等）	運輸個人	随時
			３．トイレ流水制限	事務所	随時
4	業務システムの再構築		１．運行指示のテキスト化	事務所	随時
			２．運行経費のデータ化	事務所	
5	サービスの環境配慮（交通事故・商品事故件数の削減）		１．マニュアル制定、見直し	内田	随時
			２．不具合改善	内田	随時

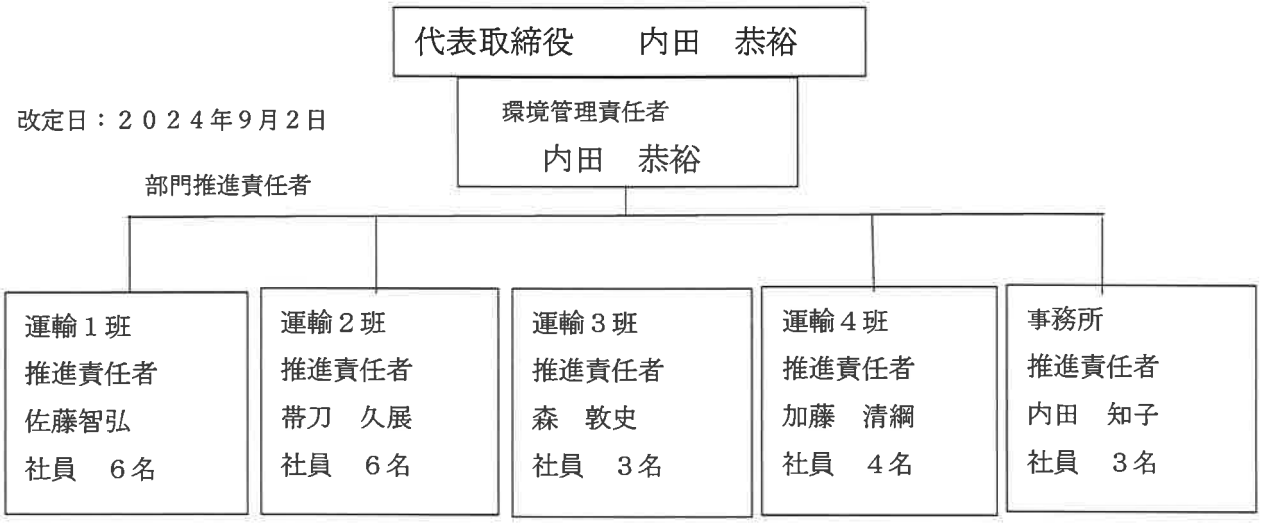
５－１．環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

改定日　２０２３年４月１日　　評価担当者　内田

環境経営方針の番号	取組目標		具体的な活動	担当	取組み内容
1	CO2 排出量の削減				
１－１	電力消費量削減（文書 6-1：電力消費量削減の行動による）		１．不要電灯の消灯	事務所	随時
			２．昼休みの消灯	事務所	毎日実施
			３．エアコンの適温設定（夏２８℃冬１９）	事務所	
			４．エアコンフィルター清掃	事務所	業者依頼とした
１－２	１．軽油消費量削減（文書 6-2：軽油消費量削減の行動による）		１．各車輌・全体の燃費の確認	個人内田	乗車時・月締
			２．積載負荷率の動向確認	内田	毎月
			３．運行経路の見直し	内田	２回実施
	２．燃費数値の改善（ｋｍ／ℓ）		１．デジタルタコグラフによる燃費影響データの解析	内田 運輸個人	随時
			２．省燃費運転講習会で周知	運輸個人	毎月実施
2	廃棄物の削減（文書 6-3 廃棄物処理手順書）	2-1 産廃のﾘｻｲｸﾙ 100%維持	1.廃オイルのリサイクル徹底	全社	実施
			2.タイヤ、バッテリーリサイクル徹底	内田	業者に確認
			3.その他について、リサイクル努力	内田	随時
		2-2 可燃ごみの削減	1.リサイクルへの分別の徹底	全社	計量継続
			2.コピーの裏紙使用	事務所	随時
3	水使用量削減（文書 6-4：水使用量削減の行動による）		１．洗車時こまめに水道ストップ	運輸個人	随時
			２．水漏れ確認（蛇口・配管等）	運輸個人	使用無時にメーター確認
			３．トイレ流水制限	事務所	節水タイプに取換え済
4	業務システムの再構築		１．業務の棚卸（業務実態調査）	会社	随　時
			２．業務の改善	会社	
5	サービスの環境配慮（交通事故・商品事故件数の削減）		１．マニュアル制定、見直し	内田	安全の「見える化」、事故情報の教育の実施

５－２　実施体制

改定日：２０２４年９月２日



役割と責任及び権限

	担当者	役割と責任及び権限
1	代表取締役	・環境経営システムの構築、環境経営マニュアルの制定、見直し ・環境管理責任者の任命 ・環境方針・環境目標の決定・見直し ・環境活動計画の承認 ・緊急事態発生時の統括 ・これらの活動（システムの構築・運用・維持）に必要な経営資源の提供
2	環境管理責任者	・環境経営システムを確立し、実行・最適な維持管理 ・環境方針・環境目標・環境活動計画の立案 ・環境活動計画の実施状況の把握 ・環境経営システムに係わる規定類の維持管理 ・環境関連法規等の把握と管理 ・環境関連教育の計画と訓練の実施 ・緊急事態発生時の対応と報告 ・外部コミュニケーションの窓口 ・問題発生時の是正、予防措置の対応を実行
3	部門推進責任者	・環境活動計画の推進 ・該当する環境関連法規の遵守状況を把握 ・活動維持の為の各種記録管理
4	従業員	・環境方針の理解と環境活動への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを自主的に実行することで活動に参画

６－１　環境経営目標の実績・取組結果とその評価

・対象期間：２０２３年４月～２０２４年３月

・作成日：２０２４年９月２日

	取　組　目　標	基準年度 2018 年度	目標値	実績	達成度	判定
1	CO_2排出量削減 単位：kg/CO_2基準年度比△1.5%	3,319,372	－	2,759,196	-%	－
		評価 次年度の取り組み	ＣＯ²排出は軽油消費が主要因である。軽油消費は業務量に大きく左右され、ＣＯ²排出削減目標は立てない。前年度との比較を表示する。			
1-1	電力消費削減（単位：ｋＷｈ） 他社との共用のため、使用量は固定とし、削減活動を評価	36,000	36,000	36,000	－	－
		評価、次年度の取組	手順書・活動計画書を確認しながら削減に努めた。			
1-2	1.軽油消費削減（単位：ℓ）	1,278,200	－	1,064,000	-%	－
	2. 燃費の改善（単位：km／ℓ） （基準年度比）3%改善	2.76	2.83	2.83	100%	○
		評価、次年度の取り組み	目標に対して達成度 102%であり今後も燃費要因を解析して燃費改善に努める。			
2 廃棄物の削減	2-1 産業廃棄物のリサイクル 100％ （単位：kg）			100%	100%	◎
		評価、次年度の取り組み	廃オイル・タイヤ・バッテリーはリサイクル 100%を目標に設定。上記数値は廃オイルのリサイクル状況である。他のついても廃棄物処理手順書に従い、リサイクルを実施。			
	2-2 可燃ごみの削減（単位：kg）1%削減	412	406	406	108%	○
		軽量可能な可燃ごみの削減に目標を設定し、毎週計量している。前年比は減少しているが、様々な増加要素を持ち合わせているため、引き続き削減に努める。				
3	水使用量削減（上水道）基準年度対比 △11%（単位：㎥）	510	453	415	108%	○
		評価、次年度の取り組み	2021 年６月に水道管の漏洩工事後の実績から数値目標の再設定をおこなう予定。			
4	業務システムの再構築	－	進捗 100%	進捗 100%	100%	○
		評価　次年度の取り組み	業務の種類別に構築した。今後、これからの重要課題を選び棚卸を進め、業務システム再構築、事業危機管理計画案を作成。			
5	交通事故・商品事故件数の削減	交通０商品５	交通０商品０	交通０商品０	100%	○
		評価、次年度の取り組み	最重要課題である目標が達成できた。			

・基準年度の値は 2015 年度　同対象期間の実績値

・結果の記載：達成＝◎または○（一部課題あり）　未達成＝×または△（一部成果あり）

・評価は対象期間の実績と環境活動計画の実施状況を対象に記載

その際、目標未達成の課題は問題点として取り上げ、予防・是正処置を講じる。

６－２　環境経営計画の実績・取組結果とその評価

・対象期間：２０２３年４月～２０２４年３月

・作成日　2024 年 9 月 2 日

・評価区分　　○：実施した　　△：十分でない（85%以上）×：出来なかった（85%未満）

環境経営方針番号	取組目標		具体的な活動	担当	実施時期	評価	評価 今後の取組
1	CO2 排出量の削減						
1-1	電力消費量削減		１．不要電灯の消灯 （省電力対応）	事務所	随時	○	継続
			２．昼休みの消灯	事務所	随時	○	継続
			３．エアコンの適温設定	事務所	夏 28℃ 冬 19℃	○	継続
			４．エアコンフィルター清掃	事務所	4 月 10 月	○	継続
1-2	1.軽油消費量削減		１．各車輌・全体の燃費の確認	内田	毎月	○	継続
			２．積載負荷率の動向確認	内田	毎月	○	
			３．運行経路の見直し	内田	適時	○	変化に応じて実施
	２．燃費数値の改善　（ｋｍ／ℓ）		１．デジタルタコグラフによる燃費影響データの解析	内田 運輸個人	随時	○	乗務日誌、デジタコの分析継続
			２．省燃費運転を安全会議で確認	運輸個人	随時	○	継続
2	廃棄物の削減	2-1 産廃のﾘｻｲｸﾙ 100%維持	１．廃オイルのリサイクル徹底	全社	随時	○	個別記録管理　継続
			２．ﾀｲﾔ､ﾊﾞｯﾃﾘｰリサイクル徹底	内田	随時	○	継続
			３．その他についてリサイクル努力	内田	随時	○	継続
		2-2 可燃ごみの削減	１．リサイクルへの分別の徹底	全社	随時	○	継続
			２．コピーの裏紙使用	事務所	随時	○	継続
3	水使用量削減		１．洗車時こまめに水道ストップ	運輸個人	随時	○	トイレは節水型に更新（2016 年）
			２．水漏れ確認（蛇口・配管等）	運輸個人	随時	○	
			３．トイレ流水制限	事務所	随時	○	
4	業務システムの再構築		１．業務の実態調査	事務所	随時	○	継続
			２．改善	事務所	随時	○	
5	交通事故・商品事故件数の削減		１．マニュアル制定・見直し	内田	随時	○	適正な教育の実施
			２．不具合改善	内田	随時	○	記録・予防措置で対応

７．環境関連法規などの遵守状況の確認・評価の結果・違反訴訟の有無

・対象期間：2023年４月～2024年３月　・作 成 日 ：２０２４年９月２日

	関係法令	要求事項	関係規則	頻度等	チェック方法	担当者	遵守評価	
								コメント
1	貨物自動車運送事業法	輸送の安全性の向上 事故の報告	15条 24条	随時	現場確認 業務日誌等	内田	○	安全会議で指導
2	道路運送車両法	車両の点検及び整備の義務	47条	随時	日常点検、３ケ月点検、車検の記録簿 選任届出	内田	○	点検予定表・実施記録掲示板の設置による目で見る管理の徹底
		点検整備記録	49条	随時			○	
		整備管理者の設定					○	
3	道路交通法	乗車又は積載の制限等	57条		乗務日誌	内田	○	安全会議で指導
4	廃棄物処理法	産業廃棄物の委託基準 ・産廃収集運搬業者・処分業者との契約書保管	12条4項	毎年3月	契約書内容の確認	内田	○	定期実施
		・産廃収集運搬業者・処分業者の許可証確認（写し保管）	12条3項				○	
		産業廃棄物の保管基準 掲示板設置60cm×60cm以上 種類・管理者名。連絡先等	12条2項	日常点検	現場確認	内田	○	掲示板の維持
		産業廃棄物の管理表 全ての産業廃棄物に産業廃棄物管理表（マニフェスト）を交付	12条3項		マニフェスト管理状況を確認	内田	○	都度交付
		・マニフェスト（A票）、B2票、D票、E票を交付日から5年間保存	12条3項	毎年3月		内田	○	
		・90日以内にB2、D票、180日以内にE票の送付が無い場合は、業者へ照会し、状況を30日以内に行政へ報告	12条3項	1回/月		内田	○	
		マニフェスト交付等状況報告 ・前年度の交付状況を報告		毎年3月	年間報告提出確認	内田	○	
5	消防法	危険物（自家用）給油取扱所 届出・掲示板・定期点検	危政例17条	日常点検	現場確認	内田	○	定期点検の徹底
6	浄化槽法	設置又は変更時の届け出	5条			内田	○	
		定期清掃点検の実施	8条	年4回	委託業者の実施報告書を確認、3年保存		○	
		法定点検の実施	11条	年1回			○	
7	フロン排出抑制法	7.5kw未満の空調機器について目視で点検		3カ月毎	点検表に記載	内田	○	5台該当、異常なし

遵守評価の結果、環境法規の違反はありません。又、関係当局からの指導や訴訟もありません。苦情もなし

８．代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果

評価対象の期間	2023 年 4 月～2024 年 3 月の活動

① 全体の評価

	評価事項	評価	改善内容
1	環境関連法規等の遵守状況	特に問題なく、遵守できている。関係の表示板の整備で意識高揚が図れている。	遵守項目再確認と「目で見る管理」に努める。
2	環境経営目標の達成度の確認	CO2 排出量の 99%は軽油消費によるものである。軽油消費は業務量と燃費に影響を受ける。新しく燃費改善を目標に掲げ目標に対し 100%を達成した。	軽油消費量は数値確認に留め、燃費（ｋｍ／ℓ）を注意深く観察し、改善による結果が CO2 排出量削減に寄与できるように努める。
		水使用量削減は、達成度 108%。トイレは節水型に更新している。	洗車が大方を占めるので、関連設備等の整備を維持する。
		交通事故・商品事故共なし。最重要経営課題であり、活動の効果はでている。	日々の安全活動を充実させ、更なる意識高揚とシステム化に努める。
3	環境経営計画の進捗状況の確認	「実施・運用の手順書」を取組目標毎に整備、適時見直し。従来の業務と関連づけて活動している。	業務マニュアルと環境関連マニュアルの一体化を図る。
4	環境に関する苦情や要望対応状況	苦情や要望は発生していない。	

② 全体の評価と見直し

（1）全体の評価

環境マネジメントシステムの運用で、運輸業の経営の根幹である「安全にしかも確実に届ける」工夫が明確になっています。本年度は交通事故・商品事故なしで基盤の安定が図られ、環境にも経営にも良い結果が出ていると考えています。

（2） 見直し事項

	項　目	変更の有無	改善内容
1	環境経営方針	有　(無)	当社の経営方針、事業活動に見合ったものであり、継続する。経営については考慮済。
2	環境経営目標	(有)　無	新しく 3 年間の目標を設ける。
3	環境経営計画	有　(無)	運用面で継続する。
4	実施体制	有　(無)	運用面で継続する。
5	環境マネジメントシステム	有　(無)	安全面、効率面で効果が出ており、現状を継続する。

東九州運輸有限会社

代表取締役　　内田　恭裕